

浜松市に審査委員特別賞

都内でプラチナ
大賞最終審査会
地域資源活用発表

新産業の創出や地域の課題解決に取り組む地方自治体や企業を顕彰する「プラチナ大賞」の最終審査会がこのほど、都内で開かれ、「地域資源を活用した『地産地消』『地産外商』による地方創生」への取り組みを発表した浜松市が、審査委員特別賞に選ばれた。

審査会では、全国から応募があつた54団体の中から1次審査を通過した10団体が、それぞれの取り組みを発表した。浜松市は市内で

展開している再生可能エネルギーや天竜材を用いた事業を、鈴木康友市長が説明し「今後は(取り組みを)国内、海外へと広げていきたい」と強調した。

このほか県内関係では54団体と別に、NPO法人グラウンドワーク三島が「プラチナ特別表彰」を受賞。渡辺豊博専務理事は、三島市内の清流復活に向けた活動について講演し「環境を再生させることで、観光振興にもつながった」と成果を語

った。

大賞は島根県雲南市と、コマツ・石川県・石川県森林組合連合会の2組が受賞した。



審査委員特別賞を受賞した浜松市の鈴木康友市長(中央)＝都内